

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：教育学研究科

岩手大学大学院教育学研究科は、学校教育実践専攻、教科教育専攻から成り、それぞれ以下の通り教育課程を編成、実施している。

学校教育実践専攻では、教育実践コースと特別支援教育コースに共通する教育基礎科目及び実践と課題に係る科目を専攻共通科目として配置し、さらにコースごとに発展科目を整備している。また、2年間の実習科目として「教職専門実地研究」を配置し、専攻共通科目及びコース発展科目を通して修得する理論的教育知と、実習科目を通して身に付く学校実践知との融合を目指した教育課程としている。

教科教育専攻では、各教科教育に関わる基礎的知識を基盤としつつ、専門科学の高度な知識と技能の修得を通し、教科教育に関する高度な学識と専門的力量を備えた教員の養成を目的とし、各コース共通に教科教育専門科目と教科専門科目で構成される教育課程としている。

### ◇学校教育実践専攻

学校教育実践専攻では、専攻の学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

（専門分野の基礎的な知識）

1. 教育実践に係る専門分野を学ぶ上で必要な基礎的知識の修得を目的とし、専攻共通科目として教育科学に関する基礎理論及び教育実践に関する基礎科目を配置し必修としている。（教育実践コース、ストレートマスター（以下、SMと略）10単位、現職院生8単位、特別支援教育コース4単位）

（専門分野の応用的・実践的な知識・技能）

2. 専門分野をより深く学ぶため、コース発展科目として応用的・総合的科目を整備し、所属分野から選択必修としている。（教育実践コースSM6単位、現職院生8単位、特別支援教育コースSM10単位、現職院生8単位）

（高度な実践的指導力の基盤となる能力）

3. 理論と実践の融合を目指す研究科全体の理念を実現するため、教科に関する基礎的授業力の育成を目的とし、学校教育実践専攻と教科教育専攻の相互乗り入れ科目を配置している。これら科目の履修を通し、教科教育と教科専門を架橋して学校における教育内容・方法を自ら創造的に開発できる実践力を高める。

（専門性に基づいた問題解決能力）

4. 修得した知識・技能を活用して現在の学校教育課題の解決に寄与できる能力の育成を目的とし、実習科目として「教職専門実地研究」を配置している。修了論文にあたる「課題特別研究」では、教育課題の解決に関わる研究テーマを追究し、その成果をまとめる過程で問題解決力が培われる。

（研究成果の発表等）

5. 研究成果を口頭、論述等で論理的に説明できる能力の育成を目的とし、口頭発表やレジュメ作成等の教育活動を組み入れた科目を配置している。「課題特別研究」の成果報告

として一般公開される修論発表会では口頭発表を義務づけている。

(社会への貢献)

6. 教員としての幅広い実践的視野を培い、学校及び社会への貢献意欲の向上を目的とし、「実践と課題」をキーワードとする科目及び学校と連携しつつ家庭・地域の教育力の発展に貢献しうる科目を配置している。

#### ◇教科教育専攻

教科教育専攻では、専攻の学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

(専門分野の幅広い知識)

1. 教科教育を専門分野とする上で基礎となる知識を修得させ、その後の研究遂行の可能性を保証することを目的とし、各コースの教科教育専門科目に「教科教育基礎論」を配置し、必修(2単位)としている。

(専門分野の応用的・実践的な知識・技能)

2. 教育現場での諸課題の解決に必要な専門的知識・技能の修得を目的とし、教科教育専門科目及び教科専門科目において各専門分野に関する「特論」と「特別演習」を配置している。教科専門科目はSM10単位、現職院生8単位を必修としている。

(高度な実践的指導力の基盤となる能)

3. 各コース教科専門科目を構成する「特論」は、全て各教科の背景となる高度な学術的専門知識を身に付けることを目的とする。また「特別演習」は、専門知識を活用した課題探求力の深化、専門知識を教育実践に応用する技能の修得など、多様でありながら共通に高度で柔軟な学術的知識・技能の修得を目指している。

(専門性に基づいた問題解決能力)

4. 現代社会の変化に対応した課題意識と柔軟な教育力の育成を目的とし、教科を横断する総合的演習科目として「言語教育系、生活・社会系、自然環境系、芸術系」の「共通課題研究」を教科教育専門科目の中に配置している。

(研究成果の発表等)

5. 各教科教育及び専門分野に関する特別演習を通して、研究成果を口頭、論述等で論理的に適確に説明できる能力を育成し、「特別研究」の成果報告として一般公開される修論発表会では口頭発表を義務づけている。

(社会への貢献)

6. 各教科が社会に寄与する役割を自覚させるとともに、地域社会の課題に応えようとする貢献意欲の向上を目的とし、教育現場や社会のニーズに呼応して教育実践や自己の研究課題を捉え直す科目を配置している。